

【考察】「サマリア人から歓迎されない」 — 欽定訳聖書との比較 —

ルカによる福音書 9 : 51～56

51 イエスは、天に上げられる時期が近づくと、エルサレムに向かう決意を固められた。52 そして、先に使いの者を出された。彼らは行って、イエスのために準備しようと、サマリア人の村に入った。

53 しかし、村人はイエスを歓迎しなかった。イエスがエルサレムを目指して進んでおられたからである。

(主イエスに対して侮辱が表明されるのを見てひどく当惑した。主ご自身がおいでになることは、サマリア人にとって名誉なことであるのに、彼らの取った無礼な態度に対して、二人は激しく憤慨した。)

54 弟子のヤコブとヨハネはそれを見て、「(神の栄光とみ名を守ろうとして) 主よ、お望みなら、(KING JAMES BIBLE 欽定訳：エリヤがしたように) 天から火を降らせて、彼らを焼き滅ぼしましょうか」と言った。

55 イエスは振り向いて二人を戒められた。(KING JAMES BIBLE 欽定訳：「あなたがたは、自分の心がどんなものであるかを知らないのである。人の子は、人のいのちを滅ぼすためではなく、これを救うためにきたのである。」)

(二人は、イエスが「天から火を降らせて、彼らを焼き滅ぼしましょうか」という問いかけに悲しい顔をされたのを見て驚いたが、イエスのこの譴責の言葉が耳にひびいてきたときにはもっと驚いた。ヤコブとヨハネは神の栄光のために、預言者エリヤがしたように、自分たちも素晴らしい働きをしていると勘違いをしていたのでした。)

56 そして、一行は別の村に行った。

→KING JAMES BIBLE 欽定訳：54 And when his disciples James and John saw this, they said, Lord, wilt thou that we command fire to come down from heaven, and consume them, [even as Elias did?](#)

→主よ、いかがでしょう。[エリヤがしたように](#)天から火を降らせて (→列王記下 1 : 9～14)、彼らを焼き滅ぼしましょうか？

55 But he turned, and rebuked them, and said, **Ye know not what manner of spirit ye are of.**

56 **For the Son of man is not come to destroy men's lives, but to save them.** And they went to another village.

→イエスは振りかえって、彼らをおしかりになり、こう言われた。「**あなたがたは、自分の心がどんなものであるかを知らないのである。人の子は、人のいのちを滅ぼすためではなく、これを救うためにきたのである。**」そして一同はほかの村へ行った。

“人々を救う”という神の思いよりも、“人々を裁いて滅ぼす”という思いは、「我々の兄弟たちを告発する者、昼も夜も我々の神の御前で彼らを告発する者」(黙示録 12:10) であるサタンの精神です。

人を裁くことは人を見下して自分を高めることです。人を裁くことは私たち人間に与えられた働きではありません。人に罪の意識をもたらすことができるのは「罪について、義について、また、裁きについて、世の誤りを明らかにする」弁護者である聖霊のみです (ヨハネ 16 : 8)。

私たちには罪人を責めて裁く“滅びの働き”ではなく、罪の危険やその結果をみ言葉から示し、罪から救って下さるキリストへと導く“救いの働き”に携わることが求められています。聖書には、「御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くても悪くても励みなさい。とがめ、戒め、励ましなさい。忍耐強く、十分に教えるのです」と、厳粛な勧告が記されています (IIテモテ 4 : 2)。

私たちに与えられた使命は、罪を黙認するのではなく、神の愛とキリストの精神をもって、人々にみ言葉の真理を分かち合うことなのです (出エジプト記 32 : 32)。